

【国語】 ICTの効果的な活用例

【領域等】思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
【学 年】第1学年
【単元名】新しい視点で
【題材名】話の構成を工夫しよう

【主な単元の学習活動】

- 1 「好きなことをスピーチで紹介する」という学習の見通しを立てる。
- 2 話題を決め、話す材料を選ぶ。
- 3 「シンキングツール」を活用し、構成を工夫してスピーチメモを作成する。(本時)
- 4 間の取り方や声の大きさなどを工夫してスピーチ練習をする。
- 5 学習した「ポイント」を使って、説得力のある提案をする。

【第3時 「シンキングツール」を使って、構成を工夫しながらスピーチ練習をする。】

ねらい サンプルスピーチを比較することを通して、主張を効果的に伝えるためには構成の工夫が大切であることに気づき、自分の伝えたい主張を効果的に伝えるための構成を工夫してスピーチメモをつくらることができる。(思・判・表 A(1)ウ)

学習過程	学習活動 ★ICT の活用	教師の支援 ★ICT の活用
導入	1 単元を貫く課題と本時の位置を確認する。 2 サンプルスピーチ A と、サンプルスピーチ B の映像を見る。 3 本時の課題を確認し、見通しをもつ。 説得力のあるスピーチになるよう、構成を考えよう。	★本時の位置を大型提示装置に映した学習計画表で確認し、学習の内容や単元を貫く言語活動、相手や目的を確かめる。 ★ポジショニング機能を活用し、A と B のどちらが分かりやすいと思ったか意思表示し、両者の意見を複数聞く。
展開	4 サンプルスピーチ A と B の構成メモを示し、違いを確認する。 ・主張を効果的に伝えるためのポイントを確認する。 5 構成を考え、小グループで検討する。 ・一番伝えたいことを効果的に伝えるために考えた構成の工夫を交流する。 ★各自の構成メモをタブレットで共有し、根拠となる材料(事例)やその順序を伝え合い、アドバイスする。 ★仲間から学んだよさを必要に応じて取り入れながら、生徒間通信の機能を使ってアドバイスをしたり、認め合ったりする。 6 スピーチの練習をする。 ★録画機能を使い、自分のスピーチを見て話す速さや間の取り方を見直す。	★大型提示装置で比較提示し、違いを明確にする。 ★大型提示装置で既習の「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」における構成の工夫を確認する。 ・問いかけや聞き手とやり取りをする時間をもったり、伝えたいことを強調したりするなど、話し手としての意図を明確にしながら、相手を意識して構成を考えるように促す。 ★生徒を抽出し、構成メモの変更前と後を、大型提示装置に映し出し、工夫したところを示しながらそのよさを確認する。 ★事前に話し方のポイントを共有しておき、意識しながら練習する。
終末	7 学習を振り返る ・本時の学習を振り返り、構成や工夫について交流することを通じた自己の変容などをまとめる。 ★アンケート機能を使い、本時の学習活動に対する達成度・満足度等を回答する。	・振り返りの視点を提示する。 ★アンケート機能によって児童から送信された自己評価を集計し、指導改善・学習改善に生かす。

ICT 活用のポイント

生徒同士で画面を共有することで、主張を効果的に伝えるためにどの材料をどの順序で伝えることが効果的なのかを、思考を視覚化し試行錯誤しながら検討する。また、既習内容や話し方のヒントなど、全員で共有したい「話し方のポイント」を、個々の端末に送付し、各自で必要な時に活用できるようにしておく。

【国語】 ICTの効果的な活用例

【領域等】思考力、判断力、表現力等 B 書くこと
【学 年】第1学年
【単元名】筋道を立てて
【題材名】根拠を示して説明しよう

【主な単元の学習活動】

- 1 学習の見通しを立てる。
(モデル文を参照し学習の出口を知る。・個人課題(テーマ)を決め、仮説を立てる。・調査方法を考える。)
- 2 レポートに載せる内容について取材、選材をする。
- 3 モデル文を参照しながらレポートを作成する。
- 4~7 「実験や観察の結果が、筆者の意見や考えにどのような説得力を与えているか」という視点で読む。
- 8 文章を読んで理解した「説得力をもたせる事実と意見の関係」を生かして、レポートを見直す。(本時)
- 9 ペアで読み合ったり、第3時に作成したレポートと第9時に作成したレポートを比較したりして、学びを実感する。

【第8時 文章を読んで理解した「説得力をもたせる事実と意見の関係」を生かして、レポートを見直す。】

ねらい 「事実がどのような考えの根拠となっているのか」「事実の解釈や、事実と意見の關係に無理はないか」の二つの視点でレポートを見直し、調査内容を見直したり、事実(調査結果)と意見の關係を精査したりして、意見に説得力をもたせることができる。(思・判・表B(1)ウ)

学習過程	学習活動 ★ICTの活用	教師の支援 ★ICTの活用
導入	1 レポートを見直す視点を確認し、学習を見通す。 ・『言葉』をもつ鳥、シジュウカラで理解した「説得力をもたせる事実と意見の關係」を振り返り、①「事実がどのような考えの根拠となっているのか」②「事実の解釈や、事実と意見の關係に無理はないか」の視点でレポートを見直すことを確認する。 ★「どの視点でレポートを見直す必要があるか」、自分の立場をアンケート機能で回答する。	★デジタル教科書を活用して「結果」と「考察」を例に挙げ、意見に説得力をもたせる事実の取り上げ方を振り返り、見つめ直す視点を明確にする。 ・『意見』と『事実(調査結果)』の關係を見直し、『意見』に説得力をもたせることができたなら○と伝え、学習のゴールを共有する。 ★どの視点でレポートを見直す必要があるか、生徒一人一人の立場を一覧機能で大型提示装置に表示する。 ・必要があれば、同じ視点で考えている子と自由に交流をしてよいことを伝える。
	2 本時の課題を確認する。 「事実(調査結果)」と「意見」の關係を見直し、「意見」に説得力をもたせよう。	
展開	3 二つの視点で「事実(調査結果)」と「意見」の關係を見直す。 ★タブレット内に、ヒントカード「考察の仕方」が入っていることを知る。 ・①の視点から見直してみると、考察の中で述べている意見は、調査結果に基づいたものでなかった。でも、どこをどのように直せばよいか分からない。タブレット内にあるヒントカードを見てみよう。 ・②の視点から見直してみると、仮説に近づくように、調査結果を都合よく解釈していたことに気付いた。これでは読み手に納得してもらえないだろう。調査結果を基に、もう一度意見を見直してみよう。その後、仲間に読んでもらい、納得できるか聞いてみよう。	★タブレット内に「考察の仕方(①事実から分かったこと、②①を仮説と照らし合わせる。③②に基づいた意見)」を入れておき、どのように直していけばよいか分からない生徒に参考にするよう伝える。 ★見直す箇所が見出せない生徒には、付箋機能で具体的に伝える。 ★教師のタブレットで、生徒一人一人の学びの進捗状況が把握できるよう、一覧表示する。
	4 4時間目に交流したペアで直したレポートを読み合い、「説得力」という視点から意見を伝え合う。 ★タブレットの二画面表示を指し示しながら、説得力をもたせた意図を説明する。	★交流の仕方を説明(掲示)する。(直した部分をタブレットの二画面表示で指し示しながら説明する。読み手は直した部分が説得力をもたせることにつながっていたか伝える。)
終末	5 学習を振り返る。 ・本時の学習を振り返り感想をノートに書く。 ★ノートを撮影し、個々のICT端末に保存するとともに、教師へ送信する。	★生徒から送信されたまとめの記述を評価に生かす。

ICT活用のポイント

生徒一人一人の立場を一覧機能で大型提示装置に表示し、同じ視点で考えている仲間と対話できるようにしたり、二画面表示を指し示しながら、説得力をもたせた意図を視覚化して説明したりすることができる。

【国語】 ICTの効果的な活用例

【領域等】思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
 【学 年】第3学年
 【単元名】未来へ向かって
 【題材名】わたしを束ねないで 新川 和江

【主な単元の学習活動】

- 1 学習の見通しを立てる。
・「人とのかかわりを振り返り、自分の可能性を見つけよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。また、「温かいスープ」を読み、筆者の思いを想像する。
- 2 筆者の考える「国際性」について自分の考えを交流し、考えを深める。
- 3 「わたしを束ねないで」を読み、構成や作者の考えについて表現を基に話し合う。
- 4 詩に表れている見方・考え方を読み取り、自分の考えをもつ。(本時)
- 5 二つの作品を通して、考えたことを交流する。

【第4時 詩に表れている見方・考え方を読み取り、自分の考えをもつ。】

ねらい 詩に表れているものの見方や考え方を読み取ることを通して、「～しないで」と訴えている相手は、周りの人間や社会だけでなく、自分自身とも考えられることに気づき、読み取ったことを踏まえて自分の考えをもつことができる。(思・判・表C(1)工)

学習過程	学習活動 ★ICTの活用	教師の支援 ★ICTの活用
導入	1 前時を振り返る ★前時に学習した内容を各自の端末で確認する。	★前時の板書や、単元指導計画等を大型提示装置に映し出して、課題解決の見通しを立てることができるようにする。
	2 本時の課題を確認し、課題解決の見通しを立てる。 「わたしを～しないで」とは、誰に訴えているのかを考え、今後の自分の生き方について考えよう。	
展開	3 課題を個人で追究する。 ★学習支援ツール(ロイロノート)に書き込みどの表現から何を讀んだかが分かるようにする。 ・「制度を作る人たちに向けて」 自由を縛る表現があるから、制度を作る人に向けて訴えていると思う。 ・「男性に向けて」 「娘」「妻」「母」作者も女性ということから、男性に向けて訴えていると思う。 ・「自分自身に向けて」 「わたし」の可能性を決めるのは「わたし」だ。限界を決めている自分自身に向けて訴えていると思う。	★どの表現から何を讀んだのかを付箋機能を使って自分の読み取りが明らかになるようにする。 ・できるだけキーワード化して書くことを指示することで自分の考えを明確にする。 ★考え方のヒントを資料箱に準備し、必要に応じて参考にできるようにする。 ・新たな見方ができたものについては色を変えておくことで、自分の考えの広がりを感じられるようにする。 ・作者が誰に何を訴えているのかについて具体的な詩の言葉「束ねないで」に着目できるように促す。
	4 グループで追究する。 ★個々のタブレットに書いたものをピンチアウトしながら自分の考えを発表する。	
	5 全体で追究する。 ・誰かへの訴えではなく見方を変えると自問自答している作者の思いも読めてくる。	
終末	6 学習を振り返る。 作者の考えから、これから社会に出ていく自分たちにとって、何かに決められた生き方ではなく、自分で決断して自分の道を突き進んでいく生き方をしていきたいと思った。	★個々の読みを集約し、さらに班追究が進むように助言を行う。 ★大型提示装置に班の代表生徒の構成を映し出し、自分たちの考えと比較できるようにする。 ・学習課題に立ち戻って振り返ることで考えを深められるようにする。 ★それぞれのまとめを共有し、仲間の考えから、学びの広がりや自覚ができるようにする。 ★生徒から送信されたまとめの記述を評価に生かす。
	★板書と自分のノートを各自の端末に保存するとともに、教師へ送信する。	

ICT活用のポイント

学習支援ツールを使い、個々の読み取りの状況をつぶさに把握することで、考えの形成に導くための個別の支援やさらに追究を進めるための手立てとして活用することができる。中心となる言葉に、印や付箋・色等を付け、考えを可視化しながら構造的に読み、共有化を図る上で有効であり、考えの形成つながる。